

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900042		
法人名	社会福祉法人 福祉楽団		
事業所名	グループホーム 杜の家		
所在地	千葉県香取市岩部869-60		
自己評価作成日	平成23年10月29日	評価結果市町村受理日	平成24年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成23年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○ナイチンゲールの看護思想をベースにしたケアの原理原則に基づいたケアの実践を目指している。
 一人ひとりに最善のケアが提供できるよう、ご利用者やご家族の声を聴き取るように心がけている。
 ○情報公開の徹底を図る為、良い情報も悪い情報も事業所側から積極的に発信するようにしている。
 ○人材育成に力を入れ、職員研修に力を入れている。外部研修は、リクルートやリンクアンドモチベーションに委託している。内部研修は、専門資格を持つ職員が講師を務め、月に3~4回のoff-JTを実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は香取市栗源地区において、グループホームの他に、特養・通所・短期入所・配食・お出かけ支援などの介護サービスを総合的に提供し、地域の信頼を得ている。各サービスの運営はサービスの垣根を越えて、利用者にとって何が大切かを判断する事業所としての「ケアのものさし」を持ち、その基準に沿って各分野の専門職が協力し合っって専門性を生かした介護の実践に努めている。利用者の利益を第一に、社会貢献、職員への配慮をバランス良く取り入れ、透明性のある事業運営を行なっている。職員間で風通し良く議論を重ね、反省すべきは謙虚に反省を重ねながら、向上心を持って真摯に業務に取り組んでいる姿は好感が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	off-JTにて『法人の理念』を職員へ伝達している。人事考課制度を用いて各職員が理念の実現に向けて取り組みが行える仕組みがある。その他、入職時のオリエンテーションにて説明を行っている。	理念や行動規範を明文化し、研修や会議などの機会を通じて周知すると共に、サービスの提供について判断に迷う時は理念に立ち返り合議し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回、地域の草刈りに参加している。その他、施設の行事にボランティアとして参加していただいている。地域の方の畑を借り野菜の栽培を行っている。	事業所全体として地域貢献、地域との交流に積極的に取り組んでいる。夏祭りなどの行事にはボランティアも多数受け入れ、また祭りに参加したり、老人クラブの見学を受け入れるなど地域貢献を兼ねた交流をはかっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に向けて、認知症の人の理解や支援方法を伝える機会はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年1回、報告も兼ねて、ご家族と職員の交流会を実施している。また、いただいた意見からアクティビティの充実として、カラオケ機器や畑をお借りして野菜作りを続けている。	香取市栗源地区の職員や地域代表、家族代表等の参加を得て年2回実施しており、内1回は家族交流会をかねて開催している。運営状況の説明とともに、家族や参加者の意見を聞き運営に反映させている。	運営推進会議の開催につき各種検討をしておられるので、来年度は開催回数を増やす方向での検討もお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務的な連絡は適宜行っている。香取市地域密着型サービス連絡会で、半年に1回程度会合を行っている。ケアサービスに関する実務的な連絡連携は無い。	香取市栗源地区の介護支援課職員には運営推進会議への参加を得ているが、香取市の担当課とは事務的な連絡や報告にとどまっている。香取市地域密着型サービス連絡会などで交流の機会はある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	KOMI理論の「ケアのものさし」に照らしたケアの実践を行うことが、不要な身体拘束をしないケアの実践に繋がっている。施設内研修で介護職員へ「千葉県の指針」の説明を行っている。	「ケアのものさし」に照らして、入居者の安全確保と身体拘束をしないケアの実践に努めている。施設内研修でも身体拘束廃止の研修を行い、「千葉県の指針」を説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6に同じ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	off-JTで「権利擁護」についてのプログラムがあり、その中で取り上げている。認知症がある方全般を対象とした検討には至っておらず家族が代弁者とみなして契約している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ショートステイを利用したことがある方は、サービスを体験しているため、その中で疑問質問を言ってくれることが多い。時間をかけて聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「お客様ご意見はがき」を用い、利用者・ご家族の意見や要望をうかがっている。意見や要望については、各部のミーティングで振り返りを行い、改善に向けている。	年4回利用者全員に「お客様ご意見はがき」を請求書に同封し、利用者・家族の要望を受け止め、その内容や対応については事業所内に掲示している。意見や要望についてはミーティングで職員間で話し合い、改善につなげている。	今回の利用者アンケート結果は全体的に一昨年の結果と比べると後退している感じを受ける。利用者の入れ替わりもあるので一概には言えないが、今一度点検をお願いしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の編成により、意見の吸い上げに勤めている。①ユニットミーティング(GH職員が参加)②施設部会議(GHリーダー、その上の統括リーダーが参加)③運営会議(管理者、統括リーダーが参加)※全て月例で開催	毎月グループホーム職員で構成するユニット会議や施設会議、運営会議などを階層別に開催し、施設内のコミュニケーションを図っている。昨年末には全職員に対して「従業員満足度調査」を実施し問題点の把握を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	11で述べた会議編成の上に、経営会議(代表者、GH管理者が参加)があり、月例で2回開催している。そこで就業環境の整備について協議している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の理念(職員への思い)に、人材育成を重点的に行うことを掲げている。施設内でのoff-JT(毎月3~4回開催)や施設外研修等、多数実施、参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香取市地域密着型サービス連絡会や地域のケアマネージャー連絡会、栗源ケア会議等に職員が参加している。今年度は、千葉県福祉人材確保定着推進事業として2つの研修を主催した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階で相談員が訪問し、ご家族の思いを聞いている。他、年4回担当職員からご家族宛てに手紙を書いている。ご家族交流会、施設行事を通して関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15と同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「ケアリングシート」を入居初日に必ず作成するため“そのときまず必要なサービス”に着手できるようにしている。入居前は居宅ケアマネージャーと連携をとってサービス計画の意見を伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同町内の方や気の合う方同士がふれあえるよう、リビングの席など工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員は年4回のご家族宛への手紙や面会時に近況報告をして、ご家族との繋がりを保っていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方が大切にしてきたことをアセスメントした上で対応している。(ゆかりの地や昔ながらの祭りへ外出したり、会いたい人に会ったり)	KOMIシートによる詳細なアセスメントをベースに、利用者ごとの要望に対応している。また、法事など家族が集まる催しごとの折には極力帰宅するように支援している。春の彼岸とお盆にはホームでの僧侶の読経を恒例としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	デイサービスや特養が併設しているため、友人・知人との交流は続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	通夜へ参列している。特養での関わり→グループホームでの友人関係が切れがちであり行き来も数か月に一度となってしまった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース担当は日々の中でその方がどうしたいのかを考えたり、声を聴いていく姿勢をとっている。それを踏まえてケアプランを立て、ケアに活かせるように努めている。	職員は日々利用者の言動や行動・仕草など常に注意を払って意向の把握に努めている。その方にしっかり向き合うと、言葉以外でも思いが見えてくるので、その部分をケース担当職員が主体的に判断してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にも相談員がご家族や本人から聞いているが、実際に携わるスタッフも自宅へ訪問し、その方の生活を理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回は、ケア内容を振り返り把握に努めている。その他、適宜状態の変化に合わせてケア内容を見直している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護・看護・栄養士・相談員で、本人のアセスメントとケア方針を立て作成している。(ご家族にも、相談したり意見をいただくこともある)	介護計画は、介護・看護・栄養士・相談員がKOMI理論の共通の価値観のもと、希望や意向、アセスメントを反映させた介護計画を立案し、本人・家族に内容を説明し、確認・同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	KOMI記録システムを活用して、個別に記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が本人と共に、自宅に訪問することなどを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別ケアの中で、本人の残された筋力などを活かせるような外出や交流の場を作っている。(祭りや畑など)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、内科・歯科医師が施設で必要な方への診療を行っている。また、月1回、内科医師による全員の方の診療を行っている。その都度、受診も行い、看護師からご家族へ状況の説明を行っている。その他、皮膚科・精神科医師の往診も月1回行っている。	週1回は内科・歯科医師の往診があり、必要に応じて治療が受けられる。月1回は全員が内科医師の診察を受けており、看護師から家族へ状況の説明も行っている。皮膚科・精神科受診には看護師が同行し通院を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その時々で、看護師と連絡を取り合い入居者の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週1回、担当医師が回診に来るので、その時に現在の状態や今後、退院した後のケアなど、相談している。その他、協力病院と電話で情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けてご家族と担当職員、看護師、相談員と面談を行い、今後のケアやご家族の思いを話し合い、方向性を決めていく。また、チームのメンバー全員が共通認識で関わられるように情報を伝達している。施設での看取りを重視し、協力病院との連携もとっている。	入居時に終末期の対応や看取りについての説明を行い、重度化した時点で家族の意向を再確認し同意書を得ている。家族と看護師、担当職員、相談員が医師の所見をもとに話し合いを重ね、心穏やかな最期を迎えられるよう、真摯に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	off-JTにて研修の機会を設けている。その他は、担当看護師からその方に予測される事態を想定して事前に対応方法を伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している。 3月11日の東日本大震災の際は、地域の方から色々と支援を受けた。	消防署指導による避難訓練、自主訓練として夜間想定訓練、通報訓練を事業所全体で実施している。また、東日本大震災の際には地域の方からの支援を元に、多数の職員を復興支援の為に現地に派遣した。その経験は事業所の災害対策にも貴重な財産となっていると思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重して声掛けや、プライバシーに関わることに対応している。(言葉使い、羞恥心への配慮など)	法人の「マナーアップ5カ条」を常に念頭におき、全職員が正しい言葉使いや敬語を使えるように指導している。また、トイレの扉の開閉や介助の際の職員の声の大きさに気を付けるなど、羞恥心に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員ペースの解釈になりがちである。自分の思いを発信できない方は、日常の生活様子から相手を理解しようとしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースになりがちである。出かけた場所、食べたいものなど、その人の希望がなるべく実現できるように、実施計画を考えて実現に向けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に援助している。(装いに関心が高い方は本人の意志を尊重し対応している。その他の方は、職員が判断して行っている。)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が食べたいものは、ご家族に買っていただくよう連絡している。入居されている方によって、お手伝いしていただき職員と一緒に準備や片付け行っている。	本人の好みを大切に、主食は選択できるようになっている。入居年数・介護度の上昇・体調等により、職員と一緒に準備や片付け等が出来る方は少なくなっている。	準備や片付けが出来るのは限られた方であるが、何がしかの役割の創出のご検討をお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が著しく変化している方は、量を観察し把握している。状態に応じて、栄養補助食品など取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。また、歯科医師の往診により、口腔内の健康管理も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に援助している。(日中はトイレ使用し夜間はポータブルトイレ使用。また、オムツ対応の方でも1日1回トイレに座ることを目指している)	利用者の状況に応じて個別に対応しているが、オムツ使用者でも1日1回は便座に座るように誘導し、極力トイレでの排泄ができるように支援している。業者主催の排泄介助の勉強会を開催し、スキルアップを図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤で対応していることが多い。便秘予防のための食品導入(食物繊維を意識的に取り入れるなど)や運動療法への取り組みは少ない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員ペースで行っている。本人の入りたい時間や曜日に合わせて支援は行えていない。	週2回の午後入浴となっており、本人の希望時間などの個別のニーズには対応出来てない。入浴を好まれない方にはその理由を職員間で考え、お風呂に入りたい気分になってもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご家族の協力によって、個別に寝具を揃えている方もいる。その他、室温の調整や布団内の保温(湯たんぽなど)も個別に対応している。また、その日の体調によって意識的に休息を促すこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当している入居者の服薬については職員で把握している。服薬が変更になったときなどは、チームで様子を観察し必要があれば看護師に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片付け、洗濯、畑作業など入居者の方がそれぞれの人生で身につけてきたことを活かし、出来る範囲での役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日、その時の希望に応じた対応はなかなか行っていない。時期はずれてしまうが、なるべく希望が実現できるように取り組んでいる。	体力的に困難な方が多くなっているが、緑に囲まれた広い敷地内には保育施設なども点在し、ベランダでの外気浴は心地よい。花見などの季節ごとの行事には極力参加するように呼びかけている。体力的に外出できない利用者には、会話の中で希望を受け止めている。	恵まれた環境にあるので遠くに行かなくても、日常の散歩を習慣化することをご検討願いたい。アンケートでも外出支援の回答は低調である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物で外出するときは、なるべくご自分でお金を持っていていただき、支払いをするように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるような装飾品の飾りつけは意識的に実施している。	明るい居間には習字等の作品や季節感のある装飾が施され、窓外の常緑樹の緑が目を休ませてくれる。各居室の周りは長いベランダになっており、天候の良い時は外気浴が楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、セミパブリックゾーンの環境はなく、自分の居室で過ごされていることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力のもと、個別に実施している。ご家族の協力が少ない方への配慮は取り組みが少ない。	居室の入り口に「○丁目○番地○号・利用者名」と番地と利用者名が分かりやすく表示された表札が掲げられており、室内にはタンスや物入れ、写真を掲げるなど、利用者の好みに応じて配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物もので普段使わないものは、入居者の方の目に触れないように配慮している。(薬品類など)		